

千葉公園再整備の方向性について

1

千葉公園をとりまく状況(再整備の背景)

- 千葉駅周辺の活性化グランドデザイン(平成28年3月策定)における、千葉駅北エリアのまちづくりの方向性
 - ・千葉公園の再整備と周辺の回遊性の強化
 - ・図書館と千葉公園の連携による文教空間の活用
- 千葉競輪場に民間活力を導入し、多目的スポーツ施設((仮称)千葉公園ドーム)として再整備
- 千葉公園体育館を全市的なスポーツの拠点として、競輪場跡地に再編、再整備

2

千葉公園のあるべき姿

人が集まり まちを育てる 都心のオアシス(仮)

憩いと安らぎ 躍動と賑わい ふれあいと交流が生まれ

これまでに経験したことのない 新たなシーンに出会える そんな良質な都市空間へ

3

千葉公園のめざすべき将来像

① 緑と水辺に囲まれた心地よい公園

► 憩い

空に向かって大きく枝葉を広げた既存樹木を活かし、木漏れ日が感じられるような心地よい
緑や広場、池のほとりでくつろげる水辺がある、都心のオアシスとなる公園とします。

② 一年、一日を通して賑わいや交流を生む公園

► 賑わい

千葉駅から近い立地と豊かなオープンスペースを活かした魅力のある施設やイベントなど
のコンテンツを充実させ、市内外から人を呼び込み、年間を通じて賑わう公園とします。

③ まちとつながる公園

► 地域の回遊性・連携

千葉駅北エリアの回遊性や周辺施設との連携を促し、地域の魅力を高め、まちづくりの核と
なる公園とします。

④ みんながつくり育てる公園

► 公園の運営

多様な主体が継続的に公園をマネジメントできる体制をめざし、市民にとって愛着と誇りを持つことができる公園とします。

4 再整備の方向性

	方向性	取組み【例】
憩い	<ul style="list-style-type: none"> ○都心の中の心地よい憩いの空間へと再生します ○高台から見渡せる風景など、景色が楽しめる公園にします ○都心の貴重な水辺『綿打池』を生かした公園にします ○一年を通して『オオガハス』とふれあい楽しめる公園にします 	<p>★起伏のある地形を生かした眺望を確保するため、東門の高台から綿打池やオオガハスが見渡せるビューポイントを整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●サクラ等の更新や間引きにより、心地よく感じられる緑へ再生。 ●四季折々の景色が楽しめる、花木や草花の充実。 ●綿打池周り等のロケーションを生かし、お気に入りの場所でゆっくり過ごせる休憩スペースを整備。 ●オオガハスの拠点公園として、展示施設等を充実。   
賑わい	<ul style="list-style-type: none"> ○訪れたくなる施設やイベントの開催など、賑わいを感じられる公園にします ○日常的なスポーツや遊びの中で、交流が生まれる公園にします ○時間で魅力が変化し、多様な使い方や楽しみ方ができる公園にします 	<p>★新たな賑わいを創出する、カフェやショップ等の施設や広場等を整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大きなイベントにも対応できるよう、駐車場や十分な広さの園路を整備。 ●斜面を生かした大型すべり台等のわくわくする遊具や、健康づくりのための健康遊具を整備。 ●ライトアップや夜のイベント等、夕方から夜にかけての魅力を高め、時間を共有したくなる演出。   
地域の回遊性・連携	<ul style="list-style-type: none"> ○中央図書館・生涯学習センター（以下、中央図書館）と公園が相互に使いやすくなるよう、アプローチを改善します ○千葉駅北口や周辺地域との回遊性を高めます ○地域の安全・安心を支える公園として、防災力を高めます 	<p>★中央図書館と公園を、バリアフリーでつなげるプロムナードを整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「公園の顔」として、主なエントランスを明るく開放的な空間に改善。 ●利用者が安心して使える園路や公園として一体感のある広場空間を整備。 ●広域避難場所として、災害時には多くの避難者を受け入れられる広場や迷込みやすいルートを整備。 ●鉄道連隊演習所跡を伝える遺構の保全活用。 ●千葉駅から公園へのアクセス性や、千葉駅北エリアの回遊性を向上させるため、歩道照明、誘導サイン、カラー舗装、花や植栽による修景等を整備。   
公園の運営	<ul style="list-style-type: none"> ○市民、企業、行政が連携、協働して、公園や地域の魅力アップに取り組みます ○施設の整備や公園の管理運営に、民間事業者の資金やノウハウを活用します ○新しい発想による、より公園を柔軟に使いこなすための取り組みを進めます 	<p>★民間の資金やノウハウを活用し、「憩い」や「賑わい」の拠点となる施設を導入。 例：心地よい緑の中で、ゆったりとくつろげるカフェやバル、おもてなしを感じられるトイレや授乳室など</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公園利用者からもてなす側へ、地域ぐるみで公園魅力アップ活動。 例：公園の魅力資源であるオオガハスを守り・育てる活動 ●地域住民や公園利用者にとって、やりたいことができる公園にするための仕組みやルールづくり。 例：地域住民・近隣の企業・市内の大学・公園管理者が一体となった組織による、新しいスタイルの公園運営  

★は重点取組みを示す

5 優先して検討すべき事項

古くなった野球場やプール

民間活力を導入し、施設の更新や賑わいを創出する新たな施設・広場等の整備を検討します。

園内道路

一般車両が通過する園内道路を見直し、利用者が安心して使える園路や公園として一体感のある広場空間の整備を検討します。

中央図書館へつながる 新たなアプローチ

中央図書館との連携を図るため、図書館と公園をバリアフリーでつなげるプロムナード及びエントランスの整備を検討します。

進行中のプロジェクト

競輪場の民間事業者による再整備

千葉競輪場に民間活力を導入し、多目的スポーツ施設((仮称)千葉公園ドーム※)として再整備を進めています。

- ・新たな形の競輪、(仮称)250 競輪を実施
- ・ドーム屋根で、屋内に自転車競技の国際規格に準拠した、周長 250m の木製トラックを設置

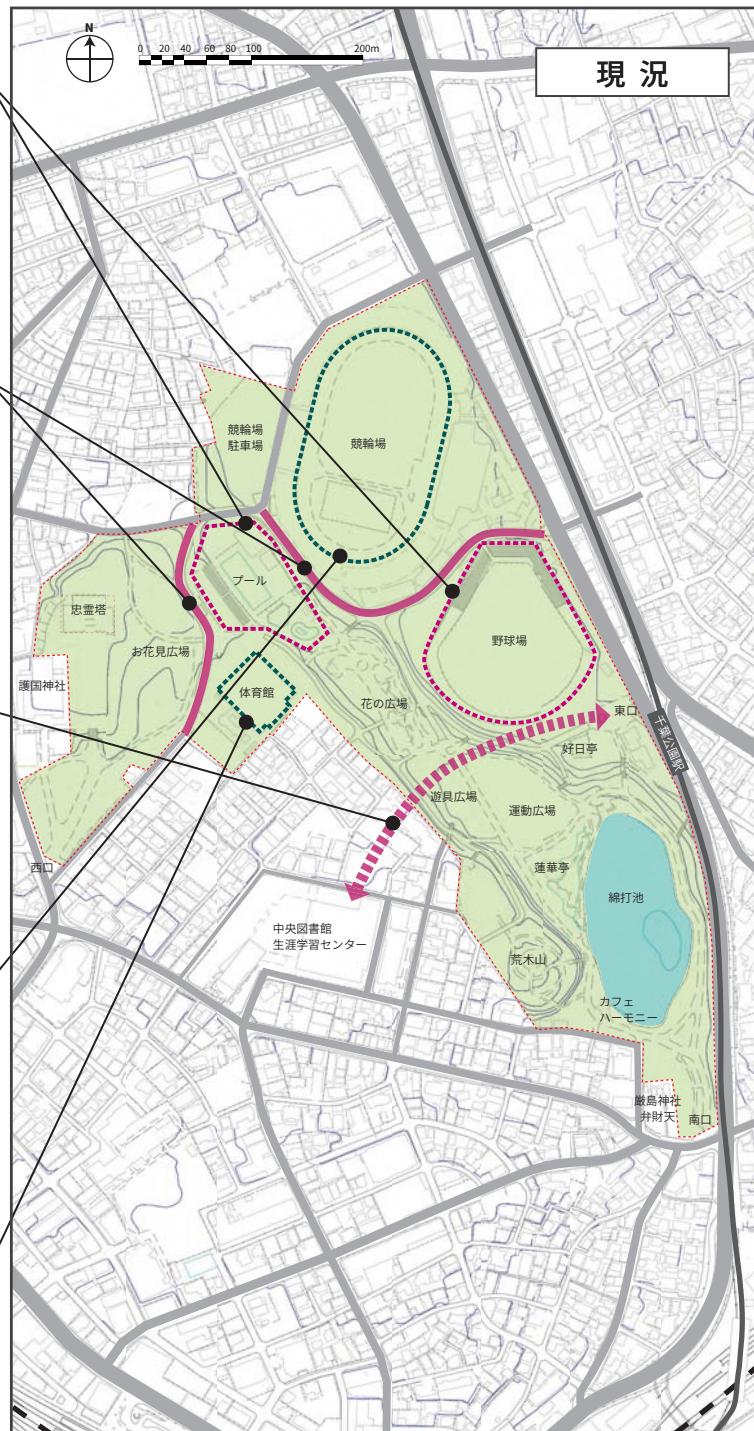
(2020年度の供用開始予定)
※公園施設ではありません。

体育館の再整備

千葉公園体育館を全市的なスポーツの拠点として、競輪場跡地に再編、再整備しています。

- ・老朽化した現体育館、武道館、中央コミュニティセンターのスポーツ施設を集約化
- ・アリーナ、武道場、トレーニング室などを配置

(2022年度の供用開始予定)



6 再整備のゾーニング

